

NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア

2015
8月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～地域おこし協力隊が描くこれからの一関～
- 4 | 団体紹介～紙生里の会～(東山)
- 5 | 地域紹介～藤沢町 第24区自治会～(藤沢)
- 6 | 企業紹介～株式会社 森燃 ～(一関)
- 7 | センターの〇〇～千厩・藤沢地域担当 佐藤支援員のお仕事術～

フタコト×ミコト

第15回 二言三言 24/123,210

地域おこし協力隊が描くこれからの一関

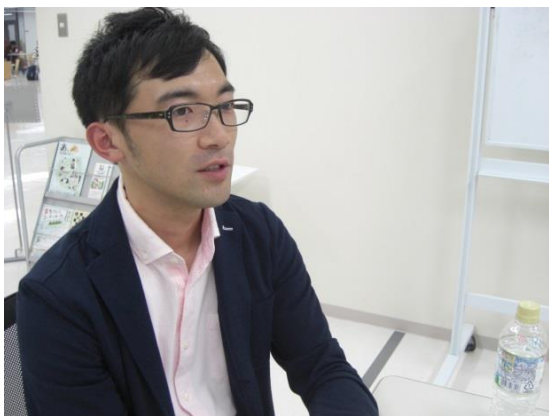
対談者 一関市農村地域づくり活動支援員 佐藤佑樹 さん
(地域おこし協力隊)

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

都会に出たよそ者の視点で地域を元気にしたい

【小野寺】「地域おこし協力隊」(以下協力隊)とは、地域外の方を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持や強化を図るもので、各種地域協力活動に従事して当該地域への定住・定着をはかっていくものです。一関市では「農村地域づくり活動支援員」の職名で受け入れ、市内で農村活性化に取り組む地域を支援しています。

地域づくりを語る時に「よそ者・若者・ばか者」の3要素が引き合いに出されますが、佐藤さんは、よそ者の視点も持ち・若者であり・ばかになれる人ということで、3要素を一人で兼ね備えていますね。一関市出身でありながら、地元の協力隊をしておりますが、応募したきっかけを聞かせてください。



農村地域づくり活動支援員
佐藤 佑樹さん

【佐藤】私は大学進学を機に千厩町を離れ、卒業後は東京のデザイン会社に7年ほど勤めました。協力隊の応募には首都圏に住む若者という条件があり、条件的には合っていたのですが協力隊として本当に求められている人材かと考えると疑問でした。合併前に千厩町を離れたので、合併して大きな転換点を迎えているなどは遠くから見ていて思っていましたし、時々帰っ

て来て地元を見るといろいろ思うこともありました。

Uターンは当初から模索はしていましたが、地元の求人情報を調べると自分が今までやってきたことが見当たらないわけです。協力隊の制度や業務内容を調べると期限はありますが、面白いことも見えました。行政がやっているのをつながりを作れたりすると新しい働き方も見えてくるのではないかと思い応募しました。

【小野寺】そうですね。Uターンを模索していても戻るきっかけがない。戻ってきても今やっている仕事の延長線、自分の積んできたキャリアを生かせる仕事が一関にあるかというところが多くあるわけではありません。話を聞いて、行政の協力隊の制度をうまく利用して新しい風を吹かせようとしたのかと感じました。

【佐藤】都会は民間の動きがとても活発ですが、地方では行政主導で進められている部分が多いと思います。そこに民間の人間が行政に入り込む隙間があるのかと勝手に思いました。

やりたいことを聞き何ができるかを話し合う

【小野寺】先日ある地域で、協力隊を地域協働体の事務局として呼ぶことは可能かという話が出ました。むしろそういう人たちに新しく作る事務局を託したいという話も出てきました。協力隊として佐藤さんほどのような活動をしていますか。

【佐藤】私は平成25年6月から室根支所産業経済課に籍を置き、農村地域づくり活動支援員として仕事をしています。基本的には市農政課で進める一関市農村地域活性化モデル支援事業で策定されたモデル地域に入り、地元でこんなことをしたいということと一緒にしています。

【小野寺】市内のモデル地域は幾つ位ありますか。

【佐藤】11 地域ありそれを二人で分担しています。私は室根町をベースに大東町京津畑と下内野、東山町紙生里（かみあがり）、千厩町奥玉の 5 地域を担当しています。それ以外の地域でも要望があれば一緒に話を聞くこともしています。各地域からやりたいことを聞き、何ができるかを相談し合います。自分の裁量で行える部分もあるので、自分のデザイン経験を生かした商品パッケージなど比較的すぐにできることもやらせていただいています。それ以外にも、一緒にイベントの手伝いをしたり、計画づくりに入って一緒に話を聞いたりアドバイスはあまりできないのですが、よそ者ばか者の視点で一緒に行動しています。

【小野寺】後押しすると言うより一緒に並走する伴走者的な立場で地域の活性化に取り組んでいるようですね。



【佐藤】「こうしてください」とかはなかなか言えません。私は農業に関しては素人なので、生産者が当たり前のこととして話していることでも「そこがポイントですよ！」みたいに要点を見つけるようにしています。

【小野寺】当たり前すぎることは新鮮には感じられない。しかし、よその人が新鮮に感じることはありますね。新しい発見や気づきを後押しするということでしょうね。

【佐藤】すべてがうまく動いている訳ではありません。事業を実行するのは手間がかかります。モチベーションをいかに上げるかが悩みです。

デザインする力で故郷の良さを発信する

【小野寺】一関を離れ東京に住んでいた時分、合併した一関市の課題は見ていましたか。

【佐藤】よく聞かれますが言葉で表すのは難しいです。敢えて言えば『もったいない』でしょうか。一関は仕事もまあまああるし、もっと売り出していけばいいのではないかと。物もいいのだから、あと一歩動き出すことが足りないことでしょうか。

【小野寺】個人的にずっと掲げている一関市の課題として表現力が足りないことだと思います。一関は、まあまあいいものがあり、商業サービスもあり、住むには不自由しないと思います。よそと比較すると足りないのは表現力で、それこそ佐藤さんが専門とするデザインやキャッチコピーなのではないかと思っています。

【佐藤】自分もどう表していいか分からなかったのですが、今、分かったような気がします。室根では 6 月以降農家は、さなぶりで比較的動きはありません。今は夏場のイベントの準備が始まりそのチラシやポスター作りをしています。3 年目にして初めて頼まれました。求められていたのはそれなのかとったりもします。販売などのデザインに携わっていたのでその方面から少しは貢献できるかと思っています。

デザインが必要とされる一関を目指す

【小野寺】協力隊も 3 年目になりますが、区切りとなる 1 年の目標を聞かせてください。

【佐藤】もしかして協力隊は、地元では役場の人と思われるか、市役所の他部署からは何をやっている人と思われるかもしれません。3 年終わったら自分の道を進むわけですが、そのことはあまり気にせず自分の専門であるデザインを生かしていきたいと思っています。できないことも相談に乗ったりするのではなく、これならできますと言えるようにしていきたいです。

【小野寺】地域デザインなどの専門的なプログラムを用意して、自分の力が発揮できる支援をしていければいいですね。そしてそれが将来の生業へと繋がっていければいいですね。

【佐藤】こちらでは生産者は物理的な物にはお金を払いますが、知識などのノウハウには出しません。その意識を変えられるように自分は頑張っていきたいと思っています。しかし、一人ではできないのでいろいろな人と知り合い広げていきたいと思っています。

【小野寺】デザインなどはこれからの一関には必要な分野だと思います。新しい生業として成りえる産業分野を一緒に開拓していきましょう。

基本情報

【一関市役所農林部農政課】

〒021-8501 一関市竹山町 7-2

TEL：0191-21-8421 FAX：0191-21-4221

【一関市役所室根支所産業経済課】

〒029-1201 一関市室根町折壁字八幡沖 345

TEL：0191-64-3806 代表 FAX：0191-64-2115

団体 紹介



会長の前田眞さん

～基本情報～

- ◆会 長：前田 眞^{まこと}さん
- ◆会 員：7名
- ◆設立日：平成 23 年 9 月 23 日
- ◆連絡先：〒029-0301
一関市東山町田河津字袴腰 1-75
- ◆電 話：0191-47-2919 (季節館)

山と水を活かす紙生里を目指して

事業スタートから今年で5年目

平泉の東の東稲山の中山間地域に広がる紙生里地域。この場所で、「紙生里とその周辺地域の伝統と環境及び人材を活かした事業により地域を活性化する」ことを目指して活動を行っているのが「紙生里の会」です。

一関市農村地域活性化モデル事業（旧一関市地域活性化モデル支援事業）として、平成 23 年度より 4 年間の事業を行っており、5 年目となる今年度は一関市からの助成を受けずに自立した事業を行っています。

現状と課題から見えてくる会の役割

事業計画を立て始めた平成 23 年当時、外部から豊富な山菜を採りに来る人は多くても、地域内では個々に収穫して一部原料として出荷している程度で、伝統文化である和紙も産業には至っていませんでした。

そこで「組織的に活動して資源を有効に活かそう」と取り組み始め、和紙の原料の収穫、加工場の整備、和紙商品化などの伝統文化の保全等に向けた活動に加え、山菜の栽培、加工場の整備、山菜加工品の商品化などの生産販売・交流活動、さらに和紙事業や山菜加工品事業の技術を持った将来を担う人材の養成や組織の育成に向けた活動を行い、現在に至ります。

今年度は前年度の活動の継続に加え、東山の紙すきの技術を持った「山谷」の鈴木さんと「紙すき館」の鈴木さんの二人の持つ伝統を継承できるようにと人材育成に力を入れていきます。

平成 23 年の東日本大震災で、山菜の事業も大きな打撃を受けたと言います。「原発の事故で、出鼻をくじかれた思いでした」と前田さん。そのような逆境にもめげずに、事業を続けてこられた背景には、いったいどのような心掛けがあったのか、伺いました。

できることからやってみよう

団体の活動で大切なことについて、「手近なこと、できる事からやってみるということが大事です」と前田さんは語ります。

「そんなことをしてどうなるんだ！という事を仰る方もよくいらっしゃいますが、やらないでうだうだしていても面白くもなんともありません。やった分だけ身につくんです」という言葉からは、これまでの豊富な経験に基づいた力強い説得力があります。

紙生里の会の事業を立ち上げたり、様々な活動を行う行動力の秘訣について伺うと、「自分の道は自分で歩くしかないんです。そのこのレールの上を、自分で歩くしかありません。だから、自分で努力するしかないと思うんです」と、地域と向き合う真摯な答えが返ってきました。

「誰かになにかをやってもらおう、という考え方はなく、自分で楽しみを見つけて、やりたいことをやっていたら、周りも変化していきます」と話す前田さんの目は、とても生き生きとしており、本当に心から活動を楽しんでやっているのだということが伝わってきました。

「山菜などの加工と販売で、80 歳を過ぎても数十万円を稼いでいる人もいます。健康にもいいし、生きがいにもなりますね」と、理事長を務める東山の産直、季節館との連携について語ります。水のきれいな東山地域ならではの新鮮な季節を感じる山菜を、みなさんも一度食べてみてはいかがでしょうか。



山菜の販売を行う季節館

藤沢町徳田・第24区自治会

地域 紹介



昨年の藤沢野焼祭では地元の高校生のアイデアをもらい、一関市長賞を受賞しました。

～基本情報～

- ◆自治会長：千葉 ひろあきさん（5期9年目）
- ◆農村地域と住宅団地が混在する第24区自治会（108世帯）は、思い出の集会所を拠点に昔からの住民と団地の住民が協力し合い、自治会活動に取り組んでいます。

日頃からの交流で育む地域の一体感

活動のはじまり、活動の拠点の集会所

藤沢町徳田地区の西端に位置する第24区自治会は、昔からの農村地域と住宅団地が混在する地域です。自治会活動の拠点であり、活動のきっかけともなった第24区集落公民館で自治会長の千葉ひろあきさんと自治会での親睦事業を支える千葉朋子さんにお話を伺いました。

昭和50年に発足した同自治会ですが、活動は自治会発足の10年前の集落公民館建設まで遡ります。集落公民館建設前は、徳田地区の部落会館に集まり活動していましたが、地区の端にある24区では、自分達にも気兼ねなく集まれる場所が欲しいと声が上がりました。地区の部落会の協力や県の補助を受け、椅子等の備品は地域で持ち寄り、昭和40年に地域を一望できる丘の上に集落公民館が完成。活動拠点ができたことで、行政区単位での活動もより活発になり、藤沢町各地での自治会結成の流れの中で、第24区自治会が発足されました。

協力し合える関係は日頃の交流から

同自治会は、7部会と10班で構成され、それぞれが協力し合い、会員が参加しやすい工夫をしています。

保健福祉部と女性部や食生活改善委員が協力して毎月開催している「お茶っこ飲み会」は、家にこもりがちなお年寄りにも出てきてもらうきっかけにと、女性部で参加者の送迎をしています。また、「お菓子作り等、できることは一緒に取り組み、ただ見てご馳走になるだけでなく、“参加した”という気持ちになってもらうようにしています」と千葉朋子さんは話します。地域の方々も毎月楽しみにしており、独り暮らしの男性が

「家でも作ってみる」とレシピを家に持って帰ることもあるそうです。

防災活動では、自主防災組織の設置に合わせ、総務部を新たに総務防災部に改正し、農家組合から譲り受けた倉庫を防災・リサイクルステーションとしました。各班の報告様式や防災用品を揃え、廃材等で災害現場を再現した本格的な救助訓練や無線を使った避難訓練等に取り組みました。現在は、以前の様な大規模な訓練は行っていませんが、火災や地震が起きた際には、無線を使って消防隊への協力を指示する等、訓練での経験が活かされています。資源回収についても、場所がわかりやすく、事前に回収期間を設けることで、生活物資の回収事業では藤沢町内で1番の回収量を誇り、自治会活動費を支える重要な資源となっています。

こうした会員相互が協力し合える体制は、日頃のコミュニケーションから成り立っています。毎月初めに各正副部会長、班長が集まる定例会を開き、前月の振り返りと当面の予定を確認し、会議後はささやかな親睦会を開いています。

昔からの人も新しく来た人も支え合って

今後の地域について「住宅団地が増えてきたが、お互いを受け入れ合い暮らしている。最近では団地から役員をする人も増え、地域の一体感が増してきた。高齢化率も高くなってきたので昔から住んでいるから、新しく来た人だからということとは関係なく、支え合っていきたい」と千葉ひろあきさんは語っていました。



今年6月のお茶っこ飲み会
子ども達と一緒に流しそう
めんを楽しみました

企業 紹介



取締役営業本部長
三浦大さん

～基本情報～

- ◆代表取締役：三浦 卓 さん
- ◆連絡先：〒021-0901
一関市真柴字中田 87
- ◆電話：0191-23-2044
- ◆FAX：0191-21-2887

快適な日常生活をサポートし、地元の頼れる企業であるために

今年で66周年を迎えた森燃の歴史

一ノ関駅前の十字路から、真柴方面に続く国道284号線を2kmほど走り、県交通一関営業所を少し過ぎた道路沿いに森燃本社があります。一関市を中心にプロパンガスの販売、それに係る機器の販売や修理、上下水道や浄化槽設備の工事等、水・ガスのプロとして活躍する会社ですが、創立は66年前の1949年（昭和24年）、まだプロパンガスが日本に普及する前でした。

当時、一般家庭の主要燃料だった炭と薪の販売を目的に、大手町に「森燃料」を創立。高度経済成長期に突入して間もない1955年（昭和30年）からプロパンガスの販売を始め、毎日夜明け前から三輪の軽トラックで仙台に向かい、ガスを仕入れては各家庭に配達。プロパンガスの普及に伴い需要が高まる中、事業を建設業まで広げ、1984年（昭和59年）には社名を「株式会社 森燃」に改称、都市計画により事務所を現在の真柴に移しました。

一代で企業を急成長させた初代会長の熱意

「昔は道路が舗装されておらず、車のスピードも出ませんでしたから、毎晩の仙台までの往復は相当な時間がかかったでしょう」。そう話すのは、取締役営業本部長の三浦大さん。「私の祖父であり、森燃の創立者である森次男会長は、次に流行るものを見極めが得意な人でした」と続けます。

「プロパンガス関連の事業から、建設業への事業拡大も祖父の発案です。急速な経済成長と共に、家、水道、ガス等の生活基盤を整え、地域の皆さんに不自由な生活を提供したかったのでしょう」。次に何が求められるかを常に考えてきた森会長の熱意は、今も職員に受け継がれています。

市民の生活を支えるプロであるために

同社では、6年前から年末に「チャリティ灯油販売」を実施。灯油1缶を500円＋善意で販売し、収益金は全てラジオ・チャリティ・ミュージックソン（※）へ寄付しています。破格の値段で灯油が買えると口コミで噂が広がり、今では販売開始2時間前からお客様が並ぶそうです。「『今年も買いに来たよ』と言うお客様の笑顔を見ると、思わず嬉しくなりますね」と三浦さん。

また、3.11の震災時は全てのお客様の家・お店を5日間かけて巡回。自然環境を考え、社用車の半分は排気ガスがクリーンなLPG車を採用していたため、燃料は十分にあったそうです。問題が起きても電話が使えず困っているお客さんがいないかという思いで車を走らせ、中でも独居（一人暮らし）高齢者世帯には手作りのおにぎりを渡し元気づけました。大きな災害が起きれば、修理の問い合わせが殺到するため、災害時における職員の行動規定は徹底しているとのこと。

ガスや水道のメーターを見れば、使用量により「家族が増えたのかな」といった変化に気づきやすく、自然と地域の見守り活動にもなっています。「今は、毎日お料理でき、お風呂・水道が使えるのが当たり前の世の中なので、突然それができなくなれば大変なストレスを感じます。お客様の『困った』に迅速に対応し、高い満足度を感じてもらえるよう努めたい」と意気込みを語ってくださいました。



一関と仙台を往復した軽トラックの写真は、社長室に大切に飾られています。

※目の不自由な方が安心してまちを歩けるよう、「音の出る信号機」を設置するチャリティ活動。



センターのまるまる!

— 千厩・藤沢地域担当 佐藤支援員のお仕事術 —

私たちの仕事は「物売りの商売」ではありません。地域ごとに人も違えば特色や伝統も違う。目に見えぬものだからこそ「いちのせき市民活動センタースタッフ」として地域にどうかかわっていくべきか、どういった支援が求められているのかを日々探り、得た知識をスタッフ間で共有しています。また、スタッフは一人ひとり特技や個性を生かしながら業務に従事しております。

特 技

技を
生かす



文字だけだと「難しそう」「読むのもめんどくさい」と思うところを、イラストや漫画を見てチラシを手にとっていただいたり、イベントや講座等に興味を持っていただけたら嬉しいなと思います。イチコレへのたくさんのご参加お待ちしております！

佐藤はイラストが得意で、これまでも当センター講座等の周知物に載せるイラストや漫画を描いており、その腕前はプロ並みです。今回は8月23日(日)に開催する当センター主催の「いちのせき市民フェスタ」のポスター用に挿絵を描いてもらいました。

イラスト作成は、事業担当者イメージを話し合い、シャープンでの下書き、パソコンで色塗り、仕上げの作業をしています。今回は、市民フェスタ内の企画「イチコレ」のコンセプト「ダンスに眠っている特別な衣装を着てランウェイを歩く市民参加のファッションショー」のイメージで描いてもらいました。

佐藤は藤沢地域の地域づくり計画策定や協働体組織立ち上げ時から支援に携わっており、現在は藤沢地域協働体組織支援として市役所担当課の職員と地域協働体職員とともに労務や雇用に関する事務等新しいことを学び日々勉強しています。一つ一つじっくり確認し、得た知識は私たちスタッフと共有します。

今後、協働推進員を地域協働体組織で雇用する地域が増えてくると思います。佐藤が現在学んで共有してくれているこの知識を私たちも生かしていきたいと思ひます。

支 援

知識を
共有



藤沢地域では、今年度からの地域協働体の事務局職員の雇用に向け、昨年度から協働推進員さんや担当課の方々と必要な事務等について準備を進めてきました。今回学んでいることを他地域での地域協働体運営サポートにも生かしていきたいと思ひます。

いちのせき市民フェスタのお知らせ

日時：平成27年8月23日(日)10時～15時

場所：なのはなプラザ

主催：一関市・いちのせき市民活動センター

共催：いちのせき市民活動促進会議 インアーチ

電話：0191-26-6400

詳細：<https://www.facebook.com/CENTER2005>

お楽しみが盛りだくさん!!

一関市の地元グルメ、体験、販売、展示などが楽しめるブースに加え、音楽や映像などのステージ発表も充実!さらに、ご当地キャラクターが大集合!また、いちのせき市民モデルコレクション「イチコレ」を昨年に続いて開催します!各ブースを回ってスタンプを10個以上集めると福引大会参加のチャンスもあるよ!

おしらせ

東山

猫の手サービス

NPO法人ワークハウス雲では、かゆいところに手が届く！「猫の手サービス」を行っています。東山町内あるいは東山町近辺の方の畑の草取り、お家の草取り、庭の整理整頓、包丁研ぎ、1人暮らしの方の草取りなど。

【日時】手伝ってほしい時間帯

【場所】東山町内、東山近辺

【料金】1時間500円（別途交通費200円）

【問合せ】NPO法人ワークハウス雲

【電話】090-7073-4985

千厩

Hana 金！

参加者同士の自然な会話・交流の中で、お悩みの解決策を探ったり、企画を膨らませていく、新しいようで自然な空間です。誰でも自由に参加出来ます。話したい人はもちろん、聞きたい人も！今回は「お悩み共有大会」♪

【日時】平成27年8月21日（金）18時45分～21時

【場所】せんまやサテライト

【料金】300円（コビル・ドリンクつき）

【問合せ】せんまやサテライト

【電話】0191-48-3735

一関

いちのせき市民フェスタ 15

一関の市民活動の1年に一度のお祭りが今年も開催されます！体験・販売・発表ブースを始めとおもちゃなどのご当地キャラクター、地元グルメ、いちのせき市民モデルコレクション「イチコレ」も開催！

【日時】平成27年8月23日（日）10時～15時

【場所】なのはなプラザ

【料金】無料

【問合せ】いちのせき市民活動センター

【電話】0191-26-6400

大東

摺沢水晶あんどん祭り

8月13日～15日の3日間、大東の玄関口である摺沢駅から摺沢商店街の通りを大小400余りのあんどんが、夏の夜をてらします。お盆の帰省客を温かく迎える伝統あるお祭りです。また、期間中は地元自治会の夏祭りも開催されます。

【期間】平成27年8月13日（木）～15日（土）

【場所】大東町摺沢 摺沢商店街

【料金】無料

【問合せ】摺沢地区商工振興会

【電話】0191-75-3160

室根

第18回あきんどふれあい祭

室根商店街が地域のみなさまへの“感謝の日”として位置づける「あきんどふれあい祭」は、8月30日（日）サンショップ駐車場を会場に開催されます。踊りのステージ部門や地域のよさこいグループによる演舞などお楽しみいただけます。

【日時】平成27年8月30日（日）

【場所】室根商工会館隣 サンショップ駐車場

【料金】無料

【問合せ】一関商工会議所 室根支所

【電話】0191-64-2063

花泉

おはなし会

花泉図書館では、ボランティアサークル、図書館職員による絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びなどが楽しめるおはなし会を開催します。毎月定期的に開催していますので、お気軽にご参加ください。

【日時】平成27年8月9日（日）、15日（土）、23日（日）
第2・4日曜日11時～11時30分 第3土曜日14時～14時30分

【場所】花泉図書館

【料金】無料

【問合せ】花泉図書館

【電話】0191-82-4939

川崎

第45回おらが自慢の でっかい花火大会

「おらが自慢のでっかい花火大会」が、北上大橋下流河畔で開催されます。二尺玉をはじめとした“希望の大輪”が夜空に打ち上げられます。「～復興・勇気・子供たちの笑顔と未来～」などのさまざまな思いが込められた花火大会として、大勢の人々を楽しませてくれます。

【日時】平成27年8月16日（日）19時～

（お屋イベントあります）

【場所】川崎町薄衣 北上大橋下流河畔

【料金】有料観覧席あり（詳細はお問い合わせください）

【問合せ及び電話】一関商工会議所川崎支所：0191-43-2440

一関市役所川崎支所産業経済課：0191-43-3601

藤沢

縄文の炎・藤沢野焼祭 2015

昭和51年に考古学者の故塩野半十郎氏の指導を得て、縄文の野焼きを再現したことをきっかけに始まったお祭りです。窯から燃え上がる炎は感動そのもの。今年は開催40周年の記念イベントを企画し皆様のお越しをお待ちしています。

【日時】平成27年8月8日（土）～9日（日）

8/8（イベント・縄文野焼）18時～23時

8/9（作品審査・表彰式）9時～11時

【場所】藤沢運動広場「特設縄文村」

【問合せ】藤沢野焼祭実行委員会

【電話】0191-63-5317

一関

第11回 いこいサマーフェスタ

恒例のいこい夏祭りの季節がやってきます。生演奏やステージでの歌や踊りをはじめ、焼きそば・やきとりなど充実の屋台コーナー、お子様に人気の縁日コーナー、豪華景品の抽選会とお楽しみ満載。ぜひお出かけ下さい！

【期間】平成27年8月22日（土）16時～

【場所】介護・福祉センター「いこいの街」

一関市三関字仲田100

【問合せ】ケアセンターいこい総本部

【電話】0191-31-1514

今月の表紙



花泉町にはかんがい用のため池が多く存在し、その数は2900を超えるほど。金沢地区菅の平にある大堤はその中でも大規模な部類に入り、丘陵地の田畑を潤しています。周囲には公園があり、湖面を見つめながら穏やかに時を過ごすこともできるでしょう。

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q NPO法で定められている20分野ってどんなもの？

A 保健・医療・福祉、社会教育、まちづくり、観光、農山漁村又は中山間地域、学術・文化・スポーツ、環境、災害救援、地域安全、人権・平和、国際協力、男女共同参画、子どもの健全育成、情報化社会、科学技術、経済活動、職業能力、消費者保護、助言・支援・連絡・交流、都道府県又は指定都市の条例で定める活動などがあります。

